

熱中症指標計(設置型)

現場に設置して、作業員に熱中症の注意を喚起するなど熱中症の予防対策に。

■特長

- JIS規格で測定したWBGT値を表示
- 熱中症危険度に合わせて上部のLEDが点灯 (外部接点にも対応)
- 気温と湿度も同時に表示

■表示器

商品名	WBGT特化型 環境表示器/TKO240型
寸法	H574mm×W422mm×D55mm※突起部含まず
重量	5kg
使用電源	AC100V/DC12V
消費電力	約3W

※取付け方法は背面に設置した単管クランプを支柱 (既存) に設置

■測定器

出力	WBGT、周囲温度、相対湿度、黒球温度、湿球温度
電源	DC12V (本体より供給)
設置環境	屋外/屋内 (屋外、屋内モード切替機能付)
重量	4kg
JIS準拠規格	JIS B 7922 精度区分クラス1.5 準拠
使用環境	0～50℃ / 10～90%RH (結露なきこと)
商品コード	Z04601



商品情報

AC
100V

TKO240型



熱中症指数計(ポータブル型)

ポータブル型のため、簡単手軽に熱中症指数を測定できます。

■特長

- WBGT値・温度・湿度・輻射熱を測定
- 簡単操作ですばやく「WBGT値」を計測
- 設定したWBGT値を超えたらアラームでお知らせ
- 動作時間800時間*

■なぜWBGT値?

気温は同じでも湿度の違いでリスクが高まり、さらに現場では、溶鉱炉や機械といった熱源からの輻射熱で、大きくリスクが高まります。そのため、総合的な指標であるWBGT値が重要になります。

■WBGT値を測ってどうする?

01 WBGT値を「測る」

作業環境のWBGT値を測って、値が基準値より高い場合、その時間帯は作業強度を下げる、強度の高い作業をする場合は作業時間を短くして休憩を多くとるなど、作業計画を工夫します。

02 作業環境を「冷やす」

まず作業環境のWBGT値を下げる対策をします。

03 カラダを「冷やす」

上記対策を行ってもまだWBGT値が高い場合は、目的に応じた冷却グッズを使用して体温の上昇を抑えます。

商品名	WBGT-213AN			
	WBGT値	気温	相対湿度	黒球温度
測定範囲	0～50℃	0～50℃	10～90%RH	0～80℃
測定精度	±2.0℃ (15～40℃)	±1.0℃ (20～50℃)	±3.0%RH (30～90%RH)	±1.0℃ (20～60℃)
電源	単四アルカリ乾電池×2本			
動作時間	800時間 (1日8時間測定で約100日動作) *			
本体寸法	幅40×長さ240×厚さ32mm			
重量	約110g (乾電池含む)			
商品コード	Z04594			

※使用環境やアラーム・電源のON/OFFや通信 (WBGT-213BN) 等により動作時間が短くなる場合があります



商品情報

乾電池

WBGT-213AN

